



# 地域と生きる

おんが病院・おかがき病院だより

## おんが病院 手術と救急



食道癌手術



人工膝関節置換術



結腸癌手術



胸腔鏡下肺癌手術



消化器外科、呼吸器外科、整形外科の医師



救急車紹介

### ☎電話番号



遠賀中間医師会 おんが病院

093-281-2810

※番号非通知を解除しておかけください



遠賀中間医師会 おかがき病院

093-282-0181

### 在宅総合支援センター

おんが病院訪問看護ステーション

093-281-3110

おんが病院ケアプランセンター

093-281-3113

在宅医療連携拠点事業

093-281-3100

遠賀中間医師会おんが病院・おかがき病院

統括院長 杉町圭蔵

## はじめに

この度は、思いもかけず、日本医師会最高優功賞をいただき、身に余る光栄に存じています。

受賞の理由として、第一に大学教授として肝臓移植や先端医療などの功績を残した事。第二に、統括院長として遠賀中間医師会おんが病院とおかがき病院の経営を安定させ、地域医療に貢献した事と聞いているので、この二つを中心にこれまでの歩みを振り返ってみたい。



日本医師会最高優功賞受賞 授与式  
(平成 28 年 11 月 1 日 日本医師会館)

## 第 1 例目の生体肝移植患者と 20 年後に再会して

私は 1985 年に九州大学の外科教授就任直後から肝臓移植の研究を新たに始めた。肝臓移植が臨床でできるまでに技術を習得できるのか自信はなかったが、ウサギ、犬、豚、猿などの動物実験を 10 年余り行って腕を磨き、1996 年 10 月 14 日に小学 1 年生の男児に父親の肝臓の一部を移植した。手術には 20 時間余りかかったが、術後の合併症もなく、無事、退院していく周三君を見送りながら、私は涙ぐんでいたのを今でも覚えている(写真 1,2)。



写真 1 : 術後 2 週目の周三君とご両親  
九大病院 ICU にて(1996 年 10 月)



写真 2 : 看護師さんに見送られて退院する  
周三君とドナーの父親

それから 20 年の歳月が流れ、周三君に再会する機会に恵まれた(写真 3)。周三君は 2 児の父親となっており、今さらながら肝臓移植が素晴らしい医療であることを実感し、私がやったことに間違いがなかったことを肌で感じた。



写真 3 : 術後 20 年の生体肝移植患者  
左から父親(ドナー)、患者の長女、  
患者の母親、周三君、著者

## 遠賀中間医師会病院は元気で活気ある病院へ変身した

福岡県には 5 つの県立病院があったが、いずれの病院も毎年大きな赤字を出し続け、平成 17 年に 5 病院は民間に移譲されることになった。福岡県立遠賀病院は、遠賀中間医師会に移譲されても相変わらず経営不振が続いた。私は古希を迎え、既に賞味期限を過ぎていたが、前医師会長の堤成基先生の嘆願に心を動かされ、平成 22 年から、病院の経営立て直しの指揮を取った。幸いなことに、現会長の津田文史朗先生を始め会員の皆様方のご協力によって、職員は明るさと活気を取り戻し、年間で 2 億円余りの黒字が出るようになった。

一方、私は九州中央病院に在職中の平成 15 年 9 月以来、今日まで 13 年間「無料セカンドオピニオン相談」を続け、1300 件余りの相談を受けている。

私が医師になったころは、「医師にすべてを任せなさい。悪いことはしないから！」ということで、医師が患者に十分な情報を提供することなく、医師の父権主義による医療が主流であった。しかし、これはすでに過去のものとなり、今日では、患者に詳細な情報を提供し、「患者の自己決定権を重視した医療」が行われるようになった。医師は、善良なる専門家として、患者自身が意志決定するための情報提供や助言を行う脇役であり、患者は「念のために」セカンドオピニオンの相談することが増加し、アンケート調査では、相談にいらした患者の 90%以上が、「相談をして良かった」と回答している。

## 終わりに

今回、平成 28 年度の日本医師会最高優功賞を受賞し、身に余る光栄である。これまで私を支えてくれた家族を始め、お世話になった多くの方々への感謝の気持ちを込めて拙い文章をしたためた。

月日の流れは速く、私はすでに後期高齢者となっているので、これからは、美しい山や川、誇らしげに咲き乱れる花を楽しみながら、世間にご迷惑をお掛けしないように心掛け、微力ではあるが、少しでもヒトのためにお役に立つことができれば幸せである。



## 地域総合支援センターの紹介

地域総合支援センター センター長 松股 孝

センター中庭に、秋に播いたエンドウが実り始めました。ご利用者の目を楽しんでいただけるように花いっぱい庭を作りたかったのですが、収穫の喜びを味わえる野菜作りになりました。数年後の実りを期待して果樹も植えました。庭を囲むコンクリートをウッドデッキにして、ご利用者がカラッと晴れた日には紫外線 B をたっぷり浴びていただけたようにしたいと計画しています。紫外線 B はビタミン D を作ってくれます。ビタミン D は骨を強くし、筋肉を強くし、感染症に強くなり、がんを少なくしてくれます。



50 名定員の重度認知症デイケアでは、高校時代に必死で英単語を覚えたような努力で、結構難しい内容を「覚えるように・思い出すように」繰り返しています。50 名定員は一昔前のひとクラスの学級の生徒数です。何かよい「学級便り」が作れないかなあ？

40 名定員の通所リハでは、お一人お一人の機能に合わせて訓練に励んでいただいています。訓練も大切ですが、土日のカラオケが楽しいひと時です。30 年代の懐メロをご一緒に歌いましょう。カラオケは「吐く息長〜く」の健康によい呼吸法をマスターするのに最適です。

22 名定員のショートステイでは、吹き抜けのような空間で贅沢なひと時を過ごしていただいています。「寝たつきりより、座りつきり」をご理解いただいた入所者が、座ったままでペダル漕ぎに取り組んでいます。ペダル漕ぎは膝を守ってくれます、大腿骨頸部を鍛えてくれます、食後の血糖値の急上昇を抑えてくれます。

今後は、おなが病院在宅総合支援センターの訪問看護ステーションご利用者にもご案内して、在宅で介護している人・されている人が、ちょっと息抜きのひとときを持てるように、短期ご利用者を増やしていきたいと計画しています。

医療保険と介護保険の橋渡しをするケアプランセンターは、地域総合支援センターの要です。ご利用者の便宜のために2名体制になります。ご期待ください。

地域の皆様がお気軽においでいただける地域総合支援センターにしたいと思っています。出前講座のご要望などがございましたらお声をおかけください。

☎ 電話でのお問い合わせ

にこにこクラブ  
(重度認知症デイケア)

093-282-7609

おかがき病院  
通所リハビリテーション

093-281-5120

ショートステイ おかがき

093-281-5117

おかがき病院  
ケアプランセンター

093-282-7157

発行日:平成 29 年 2 月吉日

発行:遠賀中間医師会おなが病院・おかがき病院

編集:おなが病院・おかがき病院広報委員会